



丁子屋平兵衛

板元

下姓中

武拾壹之卷三拾壹丁

南總里見八犬傳第九輯

全五冊曲亭主人編 九十四

特別 14 600 14



四月九日

南總里見八犬傳第九輯 卷之二十一

東都 曲亭主人編次

第一百三十回

里見侯白濱に旅概を幕下
大法師穂北に安否情を果す

却説信乃七野道を即ち其大面現八犬士ハ大代四郎照文主僕と俱
諸川驛宿盡く飯店に立寄り重旦飯を喫果したる去向の便宜を相諒し
乗りて番付の便に順路を陸をより速るれも庵主の先君手懸朝臣の御遺骨を
のり路の近を合會り風流の庵主を令りて犯すべし且穂北一談あり
發武衣取をみたり近き遠くも情を時日遅滞せんとす君令せ家
思ふ程に有程に義士今昔はなれ病者の安危を慮す
て人情の缺つ所あり又人情を先んず公の道立といふ

ま。僞。よ。

遂。多。の。

聖。い。い。を。

あつて道中單法折し、餘人なまれもあれ、那水垢落露に我復能く幫助し、思
義とて忘れず。願路も盡く義もあらず、非か一晌三日を、今や、わとも、
稀村殿いり、愛憎せらば、咱們的徳北に、今や、利護を、
我思惟、庵主並、
元ふ又先君の御遺月と安房へお伴、
へ、
日身の暇を賜り、
らん、
上、
們、

康。久。

和。康。中。

は。の。

快を、
の、
か、
先、
あ、
同、
上、

いれて照文に頼り、大い昔に詰問(大い一番時沈め)照文に依るも、
願ひありとて思ふに、
外間より余もよくヨ人最ま、
江の宿、
東馬若志、
至、
唐、
か、
文、
這、
か、

五、
他、
と、
引、
初、
大、
殿、
野、

注進



田中村の向儀の百五
中より改葬の
儀多々ある

目録の相違
又上前後

一、初祖の住持ハ、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
百、

余

大光の功
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
百、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
百、

山部竹下... 伏... 程... 仰... 山部竹下は... 伏... 程... 仰... 山部竹下は...

Table with multiple columns and rows of small text, possibly a list of items or names.

進... 伏... 程... 仰... 進... 伏... 程... 仰... 進...

心と名に書病
勤した身を
賜
時休有一日

今更にと功をなすもの心も何處もせんと思ひ難しと現八大自意も然まこと思ひ難
今更にと功をなすもの心も何處もせんと思ひ難しと現八大自意も然まこと思ひ難
今更にと功をなすもの心も何處もせんと思ひ難しと現八大自意も然まこと思ひ難
今更にと功をなすもの心も何處もせんと思ひ難しと現八大自意も然まこと思ひ難

候より有り種へ賜と東西二種朝鮮人於後時服夏引の麻草を新種穀類
の目録と其の遺蹟を有り種の日八代大士の御一東家の敷地と照し
一見遣ふ所の今又有信信
一見遣ふ所の今又有信信
一見遣ふ所の今又有信信
一見遣ふ所の今又有信信







○大法師が先月の御月夜に馳参り照文と共に信結城よりか下り自演を延命寺
○御成程の事願末及親兵衛八個の代四郎と共信結城の徳北に杖
○任り大法師の御成程の事願末及親兵衛八個の代四郎と共信結城の徳北に杖
○了る日我日とらるる御成程の事願末及親兵衛八個の代四郎と共信結城の徳北に杖
○仰けり高九梯上り屋の度つるる日教で罪ねとて一旬の御成程の事願末及親兵衛八個の代四郎と共信結城の徳北に杖
○亦晩天八代四郎とて大照文と同船を白濱多延命寺に着到りてあり隨即九候不
○見えの爲今日御田城へ参りて事の由て今日朝土司の御知事とて御成程の事願末及親兵衛八個の代四郎と共信結城の徳北に杖
○此の御成程の事願末及親兵衛八個の代四郎と共信結城の徳北に杖
○代四郎のと故故土道節自露の火土の親兵衛も御成程の事願末及親兵衛八個の代四郎と共信結城の徳北に杖
○花は下りて下枝の御成程の事願末及親兵衛八個の代四郎と共信結城の徳北に杖

危瀕

○宿所をまや同船を御成程の事願末及親兵衛八個の代四郎と共信結城の徳北に杖
○高の御成程の事願末及親兵衛八個の代四郎と共信結城の徳北に杖
○流し昨の御成程の事願末及親兵衛八個の代四郎と共信結城の徳北に杖
○現駕ハ刷是の御成程の事願末及親兵衛八個の代四郎と共信結城の徳北に杖
○長身自の御成程の事願末及親兵衛八個の代四郎と共信結城の徳北に杖
○作道とてまの御成程の事願末及親兵衛八個の代四郎と共信結城の徳北に杖
○御成程の事願末及親兵衛八個の代四郎と共信結城の徳北に杖
○難を御成程の事願末及親兵衛八個の代四郎と共信結城の徳北に杖
○文を御成程の事願末及親兵衛八個の代四郎と共信結城の徳北に杖

酸

敷

もやし (Moshi)

寺道 (Sedo)

中やと喚び。を上げ。成も健あり。信を。あつ。見。會。世。に。ま。ん。や。无。り。思。ひ。あ。ら。ま。
 指。さ。す。る。節。ま。す。け。一。奇。異。妙。實。其。里。中。の。所。見。五。七。二。世。の。力。二。八。按。現。物。種。の。在。編。れ。よ。ら。ん。
 世。の。善。三。三。ハ。以。あ。る。又。難。也。又。の。面。影。も。久。後。著。かり。見。て。自。足。の。忠。臣。ま。す。子。順。孫。一。美。姑。と。節。婦。
 あ。ら。ま。や。ん。狂。犬。の中。に。あ。ら。ま。ん。見。れ。良。人。の。身。殺。れ。違。は。り。子。は。皆。是。神。話。不。測。の。海。我。道。の。島。が。
 つ。ま。も。企。及。ぶ。難。人。や。ま。も。敬。服。と。と。喧。言。を。れ。信。乃。其。分。之。音。現。八。と。荒。茅。山。子。一。夕。
 信。退。の。相。親。又。毛。野。と。大。角。ハ。今。米。曾。初。度。の。對。面。自。他。可。達。よ。名。を。下。れ。久。但。ま。昔。話。の。
 思。ひ。あ。ら。ま。皆。共。信。相。祝。も。三。三。三。ハ。け。れ。華。蘭。等。の。席。上。熱。聞。さ。る。り。け。り。當。下。自。昔。ハ。西。個。
 推。し。け。り。西。個。の。孫。と。共。信。半。と。き。り。推。立。し。け。り。我。三。三。ハ。大。士。ハ。朝。の。鏡。之。徳。の。身。の。名。會。で。
 死。と。う。け。老。仙。身。ハ。伏。願。神。の。具。助。加。護。又。而。館。の。御。夜。の。リ。祿。連。日。先。と。う。月。木。
 持。の。下。し。け。り。實。如。あ。ら。ま。本。立。な。る。ぬ。代。四。節。ハ。物。々。さ。る。後。ま。つ。願。ハ。勿。論。使。ま。す。る。月。木。
 痛。痛。と。あ。ら。ま。人。物。体。ま。る。を。け。れ。と。き。通。年。づ。更。と。ま。な。篤。ハ。老。人。の。解。論。一。た。を。み。か。功。ハ。公。

我。道。節。々。昔。僕。の。昔。節。々。は。一。は。も。同。家。臣。さ。り。ぬ。ハ。別。故。主。の。首。目。之。條。々。ら。秋。の。ん。な。誰。も。
 信。痛。と。せ。ん。と。訃。謝。ハ。代。四。節。我。三。三。ハ。原。御。教。諭。カ。馬。の。尾。に。け。り。文。言。囀。の。ま。ひ。ら。か。り。と。
 知。る。め。り。却。今。日。の。見。ま。る。米。を。め。れ。へ。鏡。さ。れ。け。り。御。恩。を。ま。る。心。重。大。取。つ。ま。な。ま。い。ら。け。り。と。又。側。さ。り。
 神。皇。の。德。を。前。折。束。で。な。に。祭。儀。さ。る。ぬ。に。口。説。ハ。一。定。時。刻。ハ。な。し。且。不。通。さ。る。り。ま。す。に。し。り。の。音。言。音。ハ。
 え。ろ。ろ。の。海。之。前。より。一。金。の。進。備。も。不。や。教。正。さ。る。に。せ。り。申。中。ハ。何。れ。ん。と。い。ふ。ま。つ。し。り。に。ま。す。ハ。災。患。の。中。に。御。り。
 各。思。念。を。推。立。し。て。俱。に。危。瀕。へ。還。り。け。り。或。皇。時。毛。野。ハ。膝。拍。鳴。り。て。祈。言。れ。る。と。さ。ら。せ。れ。我。們。伴。
 當。今。今。上。さ。り。精。を。さ。り。ぬ。に。海。川。の。親。也。又。蘇。る。る。に。這。頭。の。世。置。を。為。さ。る。に。ま。す。と。我。れ。
 一。は。ん。の。り。と。大。家。諾。ひ。く。る。ぬ。心。願。の。り。と。く。分。か。れ。ぬ。と。い。ふ。と。き。代。四。節。推。立。ま。す。に。上。に。在。る。時。
 の。一。は。ん。の。り。可。く。も。あ。ら。ま。ん。れ。明。又。伴。ま。あ。ら。ま。の。時。分。を。下。し。先。程。皆。還。り。け。り。に。分。論。各。位。の。
 人。の。思。念。ハ。一。は。ん。の。り。風。極。ま。れ。け。り。風。極。ま。れ。け。り。神。皇。の。御。恩。を。ま。る。心。重。大。取。つ。ま。な。ま。い。ら。け。り。

政治新聞
○政治新聞
○政治新聞
○政治新聞

賜ひしる各君の身は...
皇太子皇孫田舎...
東六郎助及...
即ち...
後々...
○政治新聞

印
印

里見の家
老古記録
○政治新聞

全...
相山八郎...
○政治新聞



請命... 下... 宗師... 見... 同... 大
士... 難... 惟... 氏... 所... 宗師...
尊... 氏... 性... 改... 大... 師...
の... 宗... 師... 宗師... 宗師...
找... 師... 宗師... 宗師... 宗師...
受... 師... 宗師... 宗師... 宗師...
上... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...
へ... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...
今... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...
の... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...
世... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...

とん人... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...

領

惟... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...
ひ... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...
信... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...
俗... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...
誰... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...
ま... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...
使... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...
宗... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...
宗... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...
宗... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...
宗... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...
宗... 宗師... 宗師... 宗師... 宗師...

天保八丁酉年
夏六月三日稿了

著者北堂子集

筆
大福利市
福硯齋